

富士見市の給食

今日、国民の生活水準が向上し、食生活は一般的に豊かになったといわれていますが、一方で不規則な食事がみられたり、偏った食事内容からくる栄養のアンバランスもみられます。このような食事環境の中におかれている児童生徒に対し、心身の成長期においてはもとより、生涯を通じて健康に過ごすための食生活について理解を深めさせていくことは、今日における学校給食の重要な役割と考えられます。

目標

- ・成長期にある富士見市の児童・生徒にバランスの取れた豊かな食事を提供することにより、子どもたちの心身の健全な発達のために役立つことをねらいとした給食を実施します。
- ・学校給食を通じて子供たちに食事の大切さを理解させます。

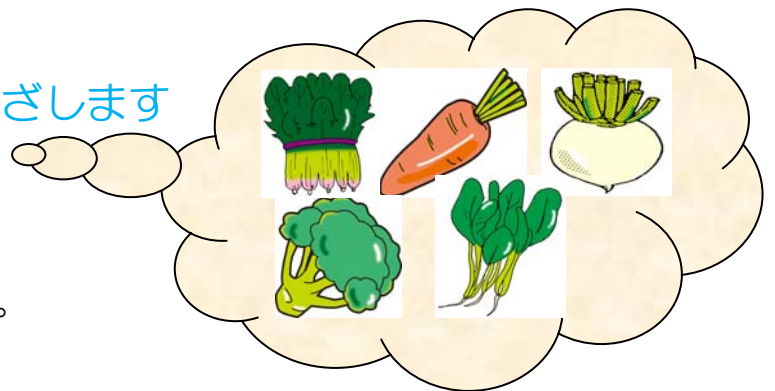
富士見市の給食調理は次のことを基本としています。

1. 安全な給食を目指します

- ・漂白していない食品や着色料など添加物を使ってない食品を使用するようにしています。
- ・化学調味料などを使用することなく、自然のだしを使用しています。
- ・ルーやタレも手作りにしています。

2. 地元の食材を使った給食をめざします

- ・旬の野菜や果物を生かして、季節感のある献立にしています。
- ・お米は富士見市産を使用して、1週間に3回の米飯給食を行います。



こんな給食を出しています。

お米は富士見市産を使用して、**1週間に3回の米飯給食**を行っています。



化学調味料などを使用することなく、**自然のだし**を使用しています。

和風の献立を多く取り入れています。

献立：そぼろごはん（肉そぼろ・卵そぼろ）、牛乳、きのこ汁、切り干し大根のナムル

—富士見市給食年表—

昭和 41 年	富士見町給食センター完成(3月) (富士見町大字上南畑) 南畑小学校給食開始(6月) *調理食数420食 鶴瀬小、水谷小の給食開始(9月) 富士見台中学校の給食開始(10月)
昭和 42 年	鶴瀬西小学校給食開始(9月)
昭和 44 年	関沢小学校給食開始(4月) (この頃、富士見町の人口が急増)
昭和 45 年	富士見市第2学校給食センター建設 (富士見市大字鶴馬 諏訪小隣り) 9月から給食開始、その後は二つの センターで町内の給食実施 *調理食数5,138食
昭和 46 年	勝瀬小、上沢小、本郷中給食開始
昭和 47 年	市制施行
昭和 48 年	水谷東小給食開始 (この頃、オイルショックによる物価 の高騰)
昭和 50 年	諏訪小、養護学校給食開始 *調理食数11,288食
昭和 51 年	東中学校給食開始
昭和 52 年	みずほ台小学校給食開始
昭和 54 年	西中学校給食開始
昭和 55 年	勝瀬中学校給食開始 *調理食数15,467食
昭和 58 年	水谷中学校給食開始
昭和 59 年	針ヶ谷小学校給食開始
昭和 60 年	*調理食数14,629食
平成 3年	第1学校給食センターを建て直し、 現在の給食センターがスタート
平成 5年	*調理食数9,181食
平成 6年	児童生徒数減少、老朽化のため、 第2学校給食センターを閉鎖し、 現在の学校給食センターで小中学校の 給食をすべてまかなう
平成 10年	*調理食数7,734食
平成 11年	ふじみ野小学校給食開始
平成 15年	*調理食数8,083食
平成 20年	*調理食数8,571食
	現在に至る



昭和 41 年からの給食例
(お皿と汁椀とビン牛乳でした)



平成 3 年からの給食例
(小鉢が加わりました)



平成 22 年からの給食例
(アルマイト食器から
PEN 食器に変わりました)